

あざみ沢通信

第36号

R1年度第1号

長野県野沢北
高等学校

PTA広報委員会

学びの芽

PTA会長 土屋 和久



この度、PTA会長を務めることとなりました土屋和久と申します。私自身、87期の卒業生で在籍時は、野球班に所属していました。現在は、専用グラウンドがございましたが、当時は完成前でしたので、狭隘な校庭をサッカー班、陸上班といっしょに、お互いが声を掛け合い、安全確保、融通しあひながら使用していたことを思い出します。

このようなかたちで母校の活動に関わりを持たせていただくことは大変光栄に感じていますが、これまでPTAの役員経験がないもので、どのように役割を果たすべきか戸惑いもございます。PTAとは生徒の親と学校の教師が協力して教育効果の向上をはかることを目的とする学校単位の組織ですから、主役である生徒たちが、それぞれに思い描く充実した学校生活となるよう、親目線で先生方と共に支えていくことができればと考えています。

PTA活動に携わるなかで、「探究的な学び」という言葉を耳にすることが多くなりました。今まさに高校教育の改革期であり、従来の知識詰め込み型から主体的に取り組む過程で理解を深めていく学びに転換されようとしています。思考を重ね、判断をし、表現する、主体的に多様な人々と協働しながら学ぶ。そういった高校での学びが、その先のステージにおいて、自己実現の一助になっていくことと思います。本校は、「卓越した探究的な学びを推進する高校（スーパードライバー校）」として研究校に指定されています。鍵となる主体性をどう育てていくのか、教育現場の共通の

課題として、5月に小諸市で開催された東信地区高等学校PTA指導者研修会や7月に長野市で開催された北信越地区高等学校PTA連合会研究大会における分科会のテーマとされてきました。東信地区研修会で事例発表された南信地区の高校生は、「先生や保護者、また地域の方たちの中に入り、高校生が話し合える機会があるとよい。一度、主体性に火がつくと、あとはどんどん動き出す」といった発言をしていました。私は、このメッセージから、高校生は高校生なりに社会形成に参加する意識を持っており、周りの大人たちが認め背中を押す、いっしょに行動しながら、時に支えるといったことが大事であると感じました。幸い本校は、学校や生徒会、PTAや岳南会などの様々な活動を通じ、そういった雰囲気醸成できていると感じています。

このPTA活動を通じ、先生をはじめとする学校関係者、また保護者や岳南会をはじめとする地域の方々と共に、ますます「探究的な学びの芽」を育てていければと思いますので、ご指導ならびにご支援のほど、よろしくお願いいたします。

「信じてはいるが、頼っていない」

学校長 北澤 潔



保護者の皆様には、日ごろより本校の教育活動につきまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

私は本年四月に学校長として着任いたしました北澤潔と申します。本校三十四代目ということになるそうです。この数字からも本校の伝統の重さを感じられますが、本校発展のために精一杯尽くしたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

さて、本年度の北信越地区高等学校PTA連合会研究大会が、七月四日・五日の両日、長野市を会場に開催されました。五日の記念講演は、平昌冬季オリンピックのスケート競技で金メダルに輝いた、茅野市出身の小平奈緒選手のコーチとして知られる結城匡啓信州大学教授を講師にお招きし「金メダリスト小平奈緒の成長を支えて」と題してのものでした。演題からは、選手とコーチのサクセスストーリーとの印象を受

けそうですが、講演は、スポーツの世界にとどまらず、親としての子への接し方、指導者としての選手への接し方など、学ぶことの多い有意義なものでした。

表題は、小平選手が結城先生との関係について問われた際に答えた言葉だそうです。実は、その背景には小平選手のお父さんの子育ての方針があります。「一つ一つ考えさせる」「常に自分で考える姿勢」等をお父さんは常に意識して小平選手に接していたそうです。ある時、伸び悩み小平選手について結城先生がお父さんにアドバイスを求めたところ、お父さんからは「少しほっておけばいいんですよ」と回答があったそうです。この言葉には、最後は必ず自分で決める芯の強さ、自立の大切さを小平選手に培ってきたお父さんの考えが垣間見えます。小平選手は、ご存知のとおり、李相花（イ・サンファ）選手との感動的な場面を自然な振舞いの中で見せたり、様々な経験を基にした名言を数多く残していますが、その背景にはお父さんの一貫した教育の成果があるのだと思います。また、結城先生もお父さんの考えを十分に理解したうえで、同様の姿勢で小平選手に接しています。「学びを積み上げた人が強い」「仲間（ライバルこそ）を大切にすること」こんな言葉に象徴される人間的な深みと強さが、あの笑顔と人々に愛される人間性として表れるとともに、その行動や言葉が世界の人々の感動を呼ぶのだと思います。

さて、表題の言葉に戻ります。前段の「信じてはいるが」は、まさに指導者と選手の理想的な関係を表しているものと思います。われわれ教員と生徒、できれば保護者の皆様との関係もこうありたいものであることは当然です。後段の「頼っていない」は、先ほど触れた自立の大切さを小平選手が十分に理解し意識しているからこそその言葉でしょう。選手や生徒の立場では、安易に頼らない、保護者や教員・指導者の立場では、すぐに答えを教えたり、自分の考えた方向に強引に導いたり強制したりしない、そんな関係が生徒や選手の自立と成長を促すのだと思います。頼られないことを寂しく思うかもしれませんが、「信頼していない」と「頼っていない」は別物です。信頼関係の中でこそ成り立つ、依存しない自立といった関係を構築したいものです。

追記 本校ホームページに「校長日記」（日記ではなく不定期ですが）が掲載されています。時折ご覧いただければ幸いです。

PTA 講演会

令和元年度PTA講演会が五月二十五日土曜日に行われました。幻冬舎新書編集長の小木田順子氏（旧姓出浦氏）をお招きし「本を作るという仕事」という演題で講演をしていただきました。

高校時代は英語班で活動し、当時読書はゼロだった小木田氏が東京大学に進学し現在の幻冬舎編集長になるまでの紆余曲折を、ご自身が見聞きしてきたことと経緯談を交えお話ししてくださいました。出版社の新書編集長として出版業界の興味深いお話やネットに時間が流れ本を読む時間が減っている現在に読まれる本、売れる本を出版する難しさ、その反面名刺一枚でどんな人にも会っていく人間力やコミュニケーション力を使って、自分のアイデア一つで勝負し本をつくる編集者としての面白さ、働くこととはどんなことなのかをお話ししてくださいました。自分の将来を考える上で何か感じることがあったのではと思います。

また人は、本によってたくさん的人生を生き多くを学び知らない世界を知り、正しく真実をみるにはどうするかを教わり真実を理解すること、本は何でも教えてくれる存在であるということ、自分の人生を豊かにするために本を読むんで欲しいということ、小木田氏の本に対する思いも伝えていただきました。

今の社会において、本に代わるものとしてネットでもいいのではという意見については、

情報の正確さという部分で考えてみると本は多くの人が関わり吟味されたうえでつくられるため、間違えがなく内容が深いということ、品質保証で考えると、本は二千年前のものも存在しているということ、紙でつくられる本の存在の大切さも話されました。最後におすすめ本の紹介もありましたので、読んでみていただければと思います。

- * 芸人式新聞の読み方
- * 満州難民
- * 考えるとはどういうことか
- * 伝わる揺さぶる！文章を書く
- * 人生を面白くする本物の教養

近頃は本ばなれという言葉が聞かれますが、講演をお聞きし、社会へ出ていく若者が本の大変さ素晴らしさを感じて、生活の一部にして欲しいと強く感じた講演会でした。

施設広報委員 谷津佳奈

令和1年度 PTA講演会
5月25日(土)PTA総会に先だって実施
演題「**本をつくるという仕事**」
講師:幻冬舎 **小木田 順子氏**
(1981年卒・第77期)



1990年、PHP研究所に入社。PHP新書創刊に携わる。2005年に幻冬舎に入社し、幻冬舎新書の創刊に携わる。担当した本は、村山斉「宇宙は何でできているのか」(新書大賞2011)、香山リカ「しがみつかない生き方」、國分功一郎「来たるべき民主主義」等。書評誌「いける本・いけない本」編集長も務める。

アンケート結果

《アンケート項目と回答》

講演会は いかがでしたか？	大変良かった・良かった	91 %
	まあまあだった	7.8%
	もの足りなかった	1.2%

具体的感想(生徒・保護者)

- 講演を聴いて、編集者の方の陰の努力は相当大きいと思った。本を読んだり、購入する側からしたら、作者がすごいと思うのですが、本当は編集者の方の陰のサポートがあるから、売れる本やすばらしい本ができるのだなと思った。そんな方々の存在を忘れることなく本を読んでいきたいし、そんな方々の気持ちも読み取ってきたい。
- 本は作者が作っていると思っていたが、編集者などたくさんの方の力で本ができていくことを知り、勉強になった。
- 普段は分からない編集者の仕事や、本が出版されるまでの過程、作者にお願いする方法等を知ることができて面白かった。他の仕事にも当てはまる場所があり、とてもいいお話が聞けたと思った。
- 本は出版社の方や作者の思いが詰まったものだった。素晴らしい本に巡り会えたときには、その本に関わった全ての人に感謝していきたい。
- 「作家さんに断られてから仕事が始まる」「大変だけれども楽しい」ということばを聞いて、働くことは大変だと思った。
- 編集者はほとんど名前も知られていないけれど、人に何かを与え、新たなことを知らせる仕事は、やりがいがあると感じた。
- 仕事でのやりがいや達成感などについて聞けたことで、つらくても頑張る事の大切さが伝わってきた。
- 本のすばらしさを改めて知ると共に、小木田さんのような働き方をしたいと強く思った。高校では是非、自分の考えを広げたり深めたりするためにも、たくさん本に触れたいと思う。そして、自分が働く側に入ったとき、ねばり強く向き合っていけるような意思を育てていきたいと思う。
- 一つの本ができるまでに、いくつもの苦難があると知って、自分も将来、苦難に当たっても乗り越えていけるように、今回の話を活かしたい。
- 「本を読むことでたくさんの人生が分かる」「本を読むことでその世界に入れる」に共感した。本を読んで、人生を豊かに賢く過ごせるようにしたい。
- 「一人の心を打つ本と百万人に読まれる本の価値は同じ」が印象的。
- 「自分が世界を変えるためではなく、世界によって変えられないようにするために本を読む」覚えておこうと思う。
- 「能力の差があるのではなく、どれだけ続けられるかが大事」が印象に残った。
- 本を作るためには様々な人が関わっているということがわかり、本を読みたくなる講演だった。
- ふだん何気なく読んでいた本がどのように作られているのかを詳しく聞くことができ、本をよりいっそう読みたくなった。書籍の電子化が急速に進んでいるが、そんななかでも紙の本を読みたいと思った。
- 本が好きなので、いろいろな本を紹介してくれて楽しかった。何歳になってもいろいろなことに挑戦するのがすごいと感じた。自分がしている仕事のよいところを自信をもって言えるような仕事に就きたいと思った。
- いままで考えていた本をつくる過程とは異なり、編集者がたいへん重要な役であることにとっても驚いた。小説以外の本を読むことがいままではほとんど無かったが、これからはすすんで読むみようと思った。
- スマホの時間を減らして、多くの本を読んでみようと思う。

前期 学校生活

「前期学校生活について」

三年四組 草間 太一

前期のイベントと言えば、やはり日輪祭でしょう。

前夜祭、最初に、カッコいい人たちがカッコいい恰好でカッコいいダンスを披露してくれました。惚れました。その後、書道や軽音の発表、グループやクラスごとのダンスの発表がありました。僕はなぜかチェリー隊Jr.としてステージに立ちました。注意されていましたがチェリー隊らしい恰好をしてしまいました。すみませんでした。発表は恥ずかしすぎましたが、一年生は、たのしかったっすね！、来年もでたいっす！、と言っていて若い子のエネルギーはすごいなと思いました。

一般公開中、僕たちのクラスではフリフリポテトを売っていました。しかし、一日目のお昼ごろ、フライヤーが壊れてしまい、販売することができなくなっていました。家庭科の先生を探したのですが、見つからず、どうすればいいか困っているときに、副担任の森山先生が指示をしてくれて、販売を再開することができました。決断力があり、的確な指示を生徒に感銘を受け、こんな大人になりたいと思いました。本当です。

合唱コンクールは僕たちのクラスは四位でした。他の人から見ると、残念だったね、と思うかもしれませんが、僕たちのクラスではうれい結果でした。僕は練習時間を決めるだけの合唱係でしたが、朝早くからも、お昼の時間も集まってもらっていたので、悔しい結果になってしまったら申し訳ないと思っていました。しかし、文句を言う人はおらず、当日には七時四五分という早すぎると思われる時間に練習を始めることを決めました。全員が集まっていました。感謝もありましたし、頑張ろうとより強く思えました。

たくさんの経験ができた日輪祭。後期には体育祭があります。それを楽しみにまた勉強をがんばっていききたいと思います。

「前期を終えて」

二年二組 石垣 歩武

二年生になったと思ったら、もう半分が終わってしまいました。このままあつという間に時が過ぎて行ってしまうのがとても恐ろしいです。

日輪祭では、「帰宅班」としてクラス展示に尽力しました。去年のクラス展示の準備がだいぶ忙しかったので今年はずいぶん余裕が持てるよう、準備期間の前に準備の準備を少しずつ始めていきました。しかし、自分は自分が思い描いているものを人に伝えるのが下手なので上手く伝わりませんでした。しかしクラスの人たちの優しさ等々のおかげでなんと自分が思い描いていたものがほぼ出来上がってしまいました。改めて二組の凄さを知るきっかけとなりました。また、ありがたいことにクラス展示で二組は学年一位をもとることが出来ました。本当に凄いなと思いました。合唱では、時に体力的、精神的にきつい練習もありました。が、それも去年の自分たちを超えるため、全体での発表順一番でも良い結果を残すために頑張っていました。練習時、発表時のクラスの団結力はとても強くなったのではないかと思います。この日輪祭でまたひとつ二組は強くなれた気がしました。

行事もなかなか忙しかった前期でしたが、やはり自分は日々の学習がどえらく大変でした。周りの人たちは班活動をしているのにも関わらず自分とは圧倒的というほどの差が出ているように結果からみると痛感させられます。だけれども、自分も自分なりに努力を微力ながら重ねていき、なんとか授業等についていっています。自分は「大器晩成」なんだと言いついて聞かせて日々の学習にこれからも取り組んでいきたいと思っています。そしていつか、「周りの人たちと同じ土俵に立ち、勝負が出来る程までになりたい」と二年生になり改めて思うようになりました。

日々が充実していた前期でした。後期も前期以上に良い日々を送れるようにしていきたいと思っています。

「やり抜くこと」の大切さ

一年二組 内藤 真子

前期学校生活では、初めての経験や全てが新しいという日々の生活から、多くのことを学ぶことが出来ました。その中でも、特に「やり抜く」との大切さを実感しました。

まず、応援練習です。昔からの伝統である応援練習、どんなものだろうと最初はとても興味深い気持ちで臨みました。当日、練習が始まると、団長をはじめとする応援団の方々の厳しく気持ちの込められた強い言葉に気持ち折れそうになりながらも、みんなが歌を必死になって覚えたり、大きな声で「わかりました！」と返事をしたりしました。そして最終日、団長からの話は、今までの練習の意味が分かり、練習のつらさが一気に感動へと変わりました。中には涙している人もいました。応援練習を通じ、やり抜くことで得られるものがあるのだと強く感じました。団長の話と最後の学年全員の校庭に響きわたった「わかりました！」の声は、忘れられないものとなりました。

次に、日輪祭です。クラス展示では、みんなでお案を出し合い、協力して準備をしました。当日は、来てくれた方々の笑顔を見て、人を楽しませるのは楽しいことだと身にしみて感じました。また、日輪祭期間中、私達が楽しんでる中、生徒会役員の方々が裏で仕事をしている姿を何度も見ました。見るたびに汗をかきながら一生懸命仕事をする姿はとても印象的でした。日輪祭期間は、あつという間でもとても濃く、学びもある楽しい時間でした。

このように、前期ではやり抜くことで得られるものがあるということとても実感できました。後期でも、何事もやり抜くということを大切に、楽しく充実した日々を送っていききたいと思っています。

日輪祭

日輪祭

施設広報委員 菊池 いづみ

息子が小学生の頃より、「日輪祭に行く」事は、我が家の定番でした。「将棋を指しに行く」事が主な理由ですが、活気ある雰囲気や展示物の素晴らしさに感心し、心待ちにしていました。

今年も、素敵なパンフレットが届きました。クラス展や文化班の催し、模擬店…、ここに来るまでどれだけ準備が大変だったか想像でき、好天を心から祈りました。

当日、ロータリーには迫力満点、「若冲」のSYMBOL WALLが現れ「わあー、すごい。」思わず駆け寄りました。細かく丁寧な作業が見て取れました。

校舎内は、小さなお子さんから年配の方まで、大勢の方が行き交う賑やかさ。地域の方も、日輪祭を楽しみにしているのだなと思いました。

1年生のクラス展は、みんな明るくて、楽しくて、輝く笑顔が印象的でした。入学してまだ数か月なのに、準備などを通して打ち解け、友情を深め、そして「かけがえのない仲間」になっていくんですね。とてもうれしい気持ちにさせてもらいました。

2年生のクラス展は「沖繩」をテーマにしており、沖繩の歴史や特徴が丁寧にまとめられて見入りました。沖繩を学ぶことができ、沖繩に寄り添える気持ちになりました。秋の修学旅行で沖繩を見て、感じて、学びを深めていけるといいですね。

3年生の模擬店は、おもてなしの心を感じました。温かいものを温かくおいしく頂きました。大勢のお客様が喜んで大盛況でした。最後の日輪祭、3年生も充分楽しんだかな。日輪祭は、全校一丸となって真摯に取り組む結果、すべての人にさわやかな感動を与え、自らの心にも良い糧として残っていくのではないのでしょうか。感動をありがとう。





合唱コンクールと第九合唱

施設広報委員 島田聡子

日輪祭最終日も朝から時折雨が降っていました。雨の音がない中で合唱コンクールを聴くことが出来れば良いな。と思いつきながら学校へ向かって歩いていると、校門の外にまで練習している歌声が響き渡っていました。当日の朝まで各クラス一生懸命練習していたのですね。合唱コンクールが始まると雨もやみ、心地よい風も体育館に吹き込んできました。

ステージ上で指揮者を一心にみつめ歌っている姿、想いのこもった歌声、心のこもった伴奏。とても胸が熱くなりました。

続いては、全校第九合唱です。今年度は生徒会主導での練習だったとのこと。大変な面もあったと思いますが、吹奏楽班の皆さんの安定の音色、ソリストの四人の皆さんの鳥肌が立つほどの素敵な歌声、そして全校の皆さんの圧倒的な声量。さすが北高生です。

とても幸せな気持ちにさせて頂いた合唱コンクールと全校第九合唱でした。ありがとうございました。



班活動



◆班活動を終えて

吹奏楽班

3年1組 林 美世

吹奏楽班で、過ごした日々はあつという間に過ぎてしまいました。振り返ってみると本当に充実していたなと思いつた時、一緒に頑張ってきた仲間が班活動を辞めた時、思えば泣きながら帰る日の方が多かったように思います。それでも、最後までやって来られたのは班員の皆や顧問の先生、親のおかげだと思っています。苦しいことを共有してくれる仲間と、私達のことを一番に考え、熱心に指導してくださる先生と、帰り道愚痴を沢山聞いてくれる親がいつも支えてくれていました。私が悩んでいる時は必ず、誰かが一緒に悩んでくれました。そうやって乗り越えてきたから、あんなに辛かったことも今となっては、皆で笑い話に出来ているのだと思います。

こんなに大好きな吹奏楽が終わってしまい、いつものように練習終わりに仲間とたわいもない話をする時間が無くなってしまったら、何を生き甲斐に残りの高校生活を送ってゆけばいいのかわかりませんでした。が、実際最後までやり切ったということ、班活動をやり切れたということ、悔いなく終わったということ、が自信になり、これから受験勉強を頑張っていこうというモチベーションにつながりました。引退時に顧問の先生に掛けていただいた言葉をお借りしますが、今まで班活に取り組んできた

姿勢が決して中途半端なものではなかったということを、受験勉強に取り組む中で証明していきたいと思えます。

野球班

3年5組 木内 仁

「たかが野球。」

僕達のやっていることなど所詮班活動。球場の近くを車で通り過ぎる人には関係のないことです。それでも僕達は野球に熱中していきました。

入班してから引退するまでの間、何一つ不自由なく野球に打ち込むことができました。両親に支えられ、仲間と出会い、監督・コーチに教を飛ばされながらこの二年と数か月を過ごせた僕は幸せ者です。そして、アウトをとるために磨いた守備。点をとるために鍛えた攻撃。最後の大会を皆で戦い抜いたこと。すごく楽しい闘(せめ)ぎ合いの日々を僕は忘れません。大会で負けて悔しい気持ちがありますが後悔は野球に付き物なのであとは可愛い後輩達がやってくれると期待しています。

最後に僕は「スポーツってすげえな。」と思います。選手だけでなく家族や友人、全く関係のない人までも夢中にさせるスポーツ。皆が一点に泣き、一点に喜びます。人を引きつける力がスポーツにはあります。僕にとつて野球は生活の一部でした。だから僕はこう思います。

「たかが野球、されど野球。」

◆北信越大会に出場ついで

水泳班

3年4組 永原 彩

昨年の北信越大会では、自分の思うようなレースができず悔しさが残る結果になってしまいました。だからこそ、今年には納得して終わりたいという気持ちが強かったです。そのため、自分の泳ぎの課題を見つけて一年間取り組んできました。

今年の北信越大会は、新潟県長岡市で行われました。自分のやってきたことを信じて力を出し切ろう、という思いで

会場へ入りました。私は、百メートルと二百メートルの背泳ぎに出場し、両方とも予選で自己ベストを更新して決勝に進出することができました。一年生の時は、決勝前すごく緊張してしまい自分の力を出し切れませんでした。ですが、今年はその時の反省を生かし、いい緊張感で落ち着いてスタート台にたてました。その結果、二百メートルでは決勝でさらにベストを更新でき、百メートルでは七位に入賞できて嬉しかったです。インターハイへの壁は高かったけれど、今まで取り組んできたことは無駄ではなかったんだと思えた瞬間でした。また、リレー二種目も記録を更新することができ、とても充実した大会でした。

タイムが伸び悩み苦しい時もありましたが、あきらめないで続けてきて本当に良かったです。応援ありがとうございました。

陸上班

3年3組 石川 泰地

「皆どんな気持ちで引退したんだろう。」

そんなことを考えながら、現役最後のレースとなる試合のレーンに立った。

僕は県大会六位で北信越大会へ出場した。県大会の順位はよくないが、自己記録では悪くない位置にいた。準決勝には進めるだろうと自分では思っていた。

試合当日。自分の競技の前に、チームメイトの応援をした。しかし全国の壁は高く、チームメイトは上に進めなかった。僕は声をかけられず、自分のウォームアップに行った。かなり緊張したが、いつも通りに終えた。

試合までの時間は一瞬で過ぎ、気づけばもうすぐスタートだった。レーンに入って準備し、冒頭のように思った。スタートの構えを取り、ピストルが鳴った。スタートからゴールまでの四百メートル。過去最高のパフォーマンスをしたと思う。しかし結果は四着で予選落ち。準決勝まで、あと十分の一秒だった。引退が決まったのに涙は出なかった。

皆どんな気持ちで引退したのかわからないが、少なくとも僕は、すべて出し切った満足感を持ち、誇らしい気持ちだった。悔いもなく、終わり方としては最高だった。

最後に、いつも指導してくれた先生方、試合の日だけでなく日々の生活で支えてくれた保護者の方々、そして何より三年間一緒に練習した陸上クラスの皆、本当にありがとうございました。

◆インターハイを終えて

ソフトテニス班

3年4組 友野 恵

私は先日行われた全国総体にソフトテニス競技の代表として出場しました。私自身、小学校三年生の頃からこの競技を始め、小学校、中学校を通して北信越大会、全国大会とさまざまな大会に出場してきましたが、高校生になってからはこの夏の北信越、インターハイが初めての大きな大会でした。それまでは、地区大会で入賞することはあっても県大会ではなかなか成績を残せず、いつも目標の一步手前で敗退し、悔しい思いをすることが多かったです。しかしそれでも目標を持ち続け、周りの人にも沢山支えられ、コツコツと練習を重ねた結果、今回の出場権を得ることができたこと、今でも本当に嬉しく思います。いろんな想いを抱えながらも声を枯らして応援してくれる仲間、本当によく気にかけてもらい、いつも背中を押してくれた先生方や保護者の方、そして送迎など色んな場面で支えてくれた両親へ、恩返しができるよう、一つでも多く勝ち自分の姿を見てもらおうという想いで挑みました。しかし結果は残念ながら一回戦敗退という形で終わってしまいました。正直、試合の中でもっとやれたなとも思いますし、なにより勝ちたかったのが悔しいところの方が大きいですが、自分のこれまでの取り組みや姿勢に、悔いはありません。沢山の応援のもとで、この大舞台で最後に試合ができたことは、本当に幸せで、一生物だと思いません。この経験を決して無駄にせず、この気持ちを忘れず、これからも色々なことに挑戦していきたいと思えます。



新しく北高に お見えになった先生方のご紹介



校長
北澤 潔先生

東信地区での勤務は初めてです。勉強や班活動等に真面目に取り組んでいる姿に大変好印象を持っています。遅く成長することを願って、全力でサポートしていきたいと思えます。



国語
高地 貞夫先生

小学校・中学校に比べ、本校に限らず高校の校舎の老朽化は甚だしく教育に大きく支障をきたしております。予算不足・学校再編を口実・隠れ蓑に現場に忍従を強いる国・県に対して大幅に改善を進めるよう保護者・地域の皆様の要請をお願い申し上げます。



国語
中塚 美奈子先生

今年度より国語科でお世話になっております中塚美奈子です。野沢北高生に国語の楽しさ、様々なものの考え方や物語の世界に触れることのおもしろさを伝えたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



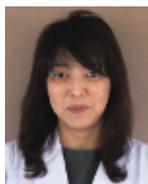
理科
菊池 文明先生

専門は化学です。化学は原子・分子のミクロ世界の話なのでイメージが難しい科目ですが、図説や実験などを通して学んでいきましょう。班活は女子テニス班顧問で、班員募集中です。よろしく申し上げます。



理科
田路 泰志先生

理科を担当している田路泰志（とうじたいし）といいます。野沢北の「文武両道」という校風に乗れ、授業に部活に生徒とともに全力で取り組んでいきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



理科
相澤 美和先生

今年度よりお世話になります。伝統ある野沢北高校で明るく素直な生徒の皆さんと共に学び、より多くの知識を吸収し、自分自身も成長できればよいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健体育
真田 浩平先生

一日も早く野沢北高校に慣れ、生徒たちと共に学びを深めていきたいと思えます。生徒たちの様々な活動がさらに充実し、成果となるように自分自身も精進していきたいと思えます。



保健体育
望月 千弘先生

誰よりもエネルギーを持って頑張らせていただきます。それぞれが自身の可能性を広げる関わりができるよう、まず自分から頑張ることを体現していきます。よろしく申し上げます。



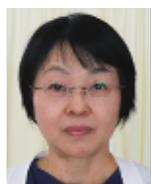
英語
熊田 侑恵先生

新任教員として今年度よりお世話になっております。何事にも全力で取り組む北高生の皆さんには日々刺激を受けており、皆さんに出会えた事をとっても嬉しく思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



家庭科
小山 久美子先生

メジャーリーガーのイチロ一選手が引退会見で、野球生活を振り返り「後悔などあるはずがない」と言った言葉にとっても感動しました。みなさんにもそんな高校生活を過ごしてほしいなと思っています。よろしく申し上げます。



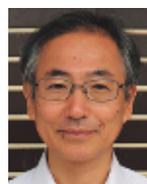
養護教諭
池田 みずゝ先生

保健室にいます池田です。4月始業式の最後、生徒会長の指揮で生徒全員が大きな声でアカペラで校歌を歌い上げる姿に感動！皆自分の学校に誇りを持っているんだなと思えました。そんな彼らにからだとの面から支援していきたいと思えます。



事務室
加藤 和彦先生

事務室の加藤です。生徒の時以来、約40年ぶりに北高に通うことになりました。PTAの会計を担当しています。少しでも学校に貢献できればと思いますので、よろしく申し上げます。



事務室
小林 悟志先生

初めまして。今年の4月に赴任した事務室の小林悟志と申します。よろしくお願いいたします。全校による第9演奏会などとても素晴らしい取組ですね。生徒も保護者の方も、事務室にご用ください。

班活動の大会結果 (2019年4月～8月) ※長野県大会以上の結果を中心に紹介します

運動班

◆野球

<第101回全国高等学校野球選手権長野大会>

本校 8-1 上伊那農業
本校 3-4 長野日大

◆陸上

<県大会>

(男子)
やり投 宮沢颯助 4位
400mハードル 石川泰地 6位

(女子)
やり投 林実玲 5位

<北信越大会>

(男子)
やり投 宮沢颯助 決勝 15位
400mハードル 石川泰地 予選敗退

(女子)
やり投 林実玲 決勝 21位

◆剣道

<県大会>

(男子)
団体 予選通過
決勝トーナメント1回戦敗退

(女子)
団体 予選通過
決勝トーナメント1回戦敗退

◆ソフトテニス

<県大会>

(女子)
団体戦 1回戦
本校 0-2 塩尻志學館
個人戦
木村・友野ペア
6位でインターハイへ

<北信越大会>

個人戦 1回戦
木村・友野ペア 0-4 菊川・山崎ペア
(富山・高岡商業)

<全国大会>

個人戦 1回戦
木村・友野ペア 2-4 萩原・関根ペア
(群馬・伊勢崎清明)

◆テニス

<県総体>

(男子)
団体戦
1R 猿谷 知紀 1-6 松商学園
柳澤・平林 0-6 松商学園
阿部 公太 3-6 松商学園

個人戦
全日本JR
1R 猿谷知紀6(2)-7 松商学園

◆バスケットボール

<総体県大会>

(男子)
本校 71-78 飯田
(女子) ベスト16
本校 86-64 飯田女子
本校 55-74 市立長野

◆ハンドボール

<総体県大会>

(男子)
本校 21-27 坂城
(女子) ベスト8
本校 14-31 松本蟻ヶ崎

◆弓道

<総体県大会>

(男子)
個人戦 予選敗退
団体戦 ベスト8
(女子)
団体戦 予選敗退

◆水泳

<県総合体育大会>

(男子)
甘利 一真
2200m背泳ぎ 4位
400m自由形 4位

(女子)
小林萌笑
100mバタフライ 6位
200mバタフライ 4位

永原彩
100m背泳ぎ 3位
200m背泳ぎ 2位

団体
女子400mリレー 5位
女子400mメドレーリレー 6位

<北信越大会>

(男子)
甘利一真
200m背泳ぎ 予選 15位
400m自由形 予選 22位

(女子)
永原彩
100m背泳ぎ 決勝 7位
200m背泳ぎ 決勝 9位

小林萌笑
100mバタフライ 予選 14位
200mバタフライ 決勝 10位

団体
女子400mリレー 予選 16位
女子400mメドレーリレー 予選 15位

文化班

◆棋道

<長野県高等学校将棋選手権大会>

男子団体戦
野沢北A(高瀬、佐藤、菊池)6位
野沢北B(小金沢、笹澤、畑)8位

男子個人戦A級
篠原康平ベスト16
眞保拓弥ベスト16
阿部透也ベスト32
高橋直也ベスト32

◆英語

<イングリッシュキャンプ>

movie contest 部門
21校中準優勝

<英語レシテーションコンテスト>

4名出場 セミファイナリスト1名
2-2 江川内ひな

◆軽音楽

第27回長野県高等学校軽音楽系クラブ合同演奏会東北信大会Power Live 2019 TH
審査員賞(ベスト16):テブクロケット
(3年:武重・石井・篠原)
奨励賞(ベスト25):Mix Juice
(3年:中澤・小林・森泉・眞田・掛川)
以上2バンド県大会に進出

編集後記

令和に年号が変わり新しい時代がスタートしました。上半期に行われた学校行事の紹介を中心に「あざみ沢信36号」を作成しました。多くの方々のご協力をいただきありがとうございます。

何事にも、全力で真剣に取り組んでいる北高生の皆さんの活動の様子の一端を、保護者の皆様にお伝え出来ればと思います。

行事や班活動では思い通りの結果が出せたでしょうか。毎日々の積み重ねは本物です、培った体験や経験や友情はこれからの人生の糧となることでしょうか。

生徒の皆さんは、どのような将来を思い描いているのでしょうか、具体的な夢や目標は持っていますか？

浅間山、八ヶ岳、千曲川など、自然豊かな佐久の地で多に学び、多に触れあい、時には悩み、いろいろな感覚を磨いてほしいと願っています。

そして、夢や目標に向かい前進していきましょう！

施設広報委員長 池田 裕子